

| | | | | | | | |
|--------------------|--|--|----|---------------|--------|------|----|
| 科目名 Course Name | 認知症の理解Ⅱ Understanding Dementia II | | | ナンバリング No. | J4-007 | | |
| 年次 | 2年 | 期別 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 |
| 担当者氏名 | 和田 晴美 | | | | | | |
| 連絡方法 | C-Learning で対応。 または福祉棟 2F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(介護福祉士養成課程必修) | | | | | | |
| 関連 DP | DP1,DP2,DP5 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | 認知症の理解Ⅰで学んだ医学的知識をもとに、非薬物療法の学習等を行う。認知症がある人の心理・行動の特徴を理解し、本人および家族への支援を考える。 ①認知症がある人にとっての望ましい環境を、考えることができるようにする。 ②認知症の非薬物療法の種類を列挙し、具体的な方法が説明できるようにする。 ③芸術療法が、認知症高齢者の QOL 向上に効果があることを、体感できるようにする。 ④認知症がある人を介護する家族のストレスの原因や、対処方法を説明できるようにする。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 認知症の理解Ⅱでは、認知症の理解Ⅰで学んだ基礎的知識をもとに、様々な行動に対応し、尊厳を重視した介護を行うための基礎的能力を養う。講義、演習、グループ学習やディスカッションを通して認知症介護への理解を深める。また、認知症の理解Ⅰに引き続き、認知症に関連するトピックスを選び、概要と感想をプレゼンテーションすることを課題とする。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | | | | | | |
| | L02 | 認知症がある人への効果的な非薬物療法の種類と概要を、説明することができる。 | | | | | |
| | L03 | 認知症がある人と家族に対する、尊厳を支えるサポート体制を、説明することができる。 | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 「認知症の原因疾患」や「認知症に関するトピックス」の発表後は、必ず補足をし、発表に対する感想を述べ、全学生にフィードバックする。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | 新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解 中央法規出版(認知症の理解Ⅰと共用) | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | 授業・グループ学習・ディスカッションには積極的に参加し、学びを共有してほしい。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。グループ学習時は協力して課題に取り組み、意見交換により課題を深く追求すること。 | | 10 | | |
| レポート/作品 | 芸術療法の体験後のレポートで評価する。体験の感想、学び、今後の展望が記載されていること。 | | 10 | | |
| 発表 | ①非薬物療法の学習 ②認知症に関するトピックスで評価をする。評価基準 S は、創意にあふれ、誰にも分かりやすく工夫した発表であり、他者を惹きつけるものであること。 | | 10 | 10 | |
| 小テスト | | | | | |
| 試験 | 授業の振り返り、知識習得の確認のために試験を行う。問題は文章の正誤を判断するものや語群からの選択問題、穴埋め問題等。 | | 10 | 40 | |
| その他 | 認知症の非薬物療法の資料で評価する。評価基準 S は、課題を十分に理解しテーマを掘り下げて調査しており、分かりやすい資料を作成し期限厳守して提出すること。使用した文献や資料を明らかにしていること。 | | 10 | | |
| 合計 | | | 50 | 50 | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|--|
| 1 | 授業内容 | ガイダンス(シラバスにそって授業概要、授業の目標と学習の成果、評価方法等の説明) 認知症がある方との関わりの振り返り 【個人ワーク】 |
| | 事前・事後学習 | 実習や生活の中での認知症がある人とのかかわりを思い出し、認知症の理解 I で学んだことが役立った場面などを振り返り、プリントに記載する |
| 2 | 授業内容 | 障害をかかえて生きることへの支援 施策 |
| | 事前・事後学習 | 現在までに行われている認知症の施策を年代ごとに整理してノートに記載する。 |
| 3 | 授業内容 | 在宅環境 グループホーム、宅老所について 視聴覚教材の視聴 施設環境について 【グループディスカッション・発表】 |
| | 事前・事後学習 | 託老所、グループホームの成り立ち、沿革等を調べノートに記載する。 |
| 4 | 授業内容 | 認知症ケアの実際 パーソン・センタード・ケア |
| | 事前・事後学習 | パーソン・センタード・ケアの 5 つの心理的ニーズをノートに転記して、説明できるように意味を調べ記載する。 |
| 5 | 授業内容 | 認知症の非薬物療法① 【調査学習】 <資料提出日は授業中に指示する> |
| | 事前・事後学習 | 割り振られた非薬物療法について、図書館やネットで調べる。課題の内容を網羅できるように精査し整理して資料を作る。 |
| 6 | 授業内容 | 認知症の非薬物療法② 【調査学習】 |
| | 事前・事後学習 | 割り振られた非薬物療法について、図書館やネットで調べる。課題の内容を網羅できるように精査し整理して資料を作る。 |
| 7 | 授業内容 | 認知症の非薬物療法③ 調査学習のまとめ 【ロールプレイの練習】 |
| | 事前・事後学習 | 発表に向けて、ロールプレイの場面設定、登場人物、セリフ等を考え記載する。 |
| 8 | 授業内容 | 認知症の非薬物療法④ 【ロールプレイによる発表と補足】 |
| | 事前・事後学習 | 前半の発表者の資料に補足事項を記載する。 |
| 9 | 授業内容 | 認知症の非薬物療法⑤ 【ロールプレイによる発表と補足】 |
| | 事前・事後学習 | 後半の発表者の資料に補足事項を記載する。 |
| 10 | 授業内容 | 芸術療法の実践「臨床美術体験」(臨床美術協会会員 アトリエ こぼこ 小橋 操先生)【演習】<体験後のレポート課題 提出は第 11 回> |
| | 事前・事後学習 | 体験後の感想を記載する。 |
| 11 | 授業内容 | 認知症の人と家族への支援① 家族のストレス、家族へのレスパイトケア 【講義】 |
| | 事前・事後学習 | 家族にとって認知症ケアでストレスになることを調べ、ノートに記載する。 |
| 12 | 授業内容 | 認知症の人と家族への支援② 視聴覚教材「ハルさんの物語」の視聴 認知症がある人に対する人権侵害の問題と対応 【グループディスカッション・発表】 |
| | 事前・事後学習 | 視聴覚教材から、家族にとって必要なケアを考えノートに記載する。 |
| 13 | 授業内容 | 認知症になっても安心して生活できる社会とは① ブレインストーミング・KJ法による 【グループディスカッション】 |
| | 事前・事後学習 | 認知症になっても安心して生活できる社会について、事前に 5 つ以上考えてくる。 |
| 14 | 授業内容 | 認知症になっても安心して生活できる社会とは② 【発表・まとめ】 |
| | 事前・事後学習 | 発表の内容を受け、認知症があっても安心して生活できるためには何が必要か学んだことをノートに整理する。 |
| 15 | 授業内容 | 授業のまとめ、国家試験対策 |
| | 事前・事後学習 | 試験対策で配布した資料をもとに、試験に向けた学習を行う。 |